

平成19年6月7日

ぱくぱくネットとよた  
島津 朋子 様

豊田市教育委員会保健給食課

### 給食に関する問合せについて（回答）

日ごろは学校給食についてご理解・ご協力をいただきありがとうございます。  
さて、先日依頼がありました問合せについては、下記のとおりですのでよろしくお願いいたします。

#### 記

- 1) 現在週3回「ごはん」が出ています。麦ごはんもよく出ていますが、7分つき米は検討されているのでしょうか。分つき米は、白米に比べカロリーはほとんど同じですが、他の栄養価が高いです。食物繊維をはじめ、ビタミンB1などの栄養が沢山入っています。7分あるいは8分つきなら、食べやすいのではないのでしょうか。  
ぜひ検討していただきたいと思っています。  
麦以外の雑穀や発芽玄米はどうでしょうか？

#### 回答：

「ごはん（精白米）」については、愛知県学校給食会より購入しており、現在、その種類としては、「白飯（精白米）」及び「麦ご飯（精麦）」になります。「麦ご飯」は食物繊維やビタミンB<sup>1</sup>などが多い点で月に数回使用しています。

ご要望についてですが、ご指摘のとおり、食物繊維やビタミンなど「ごはん」よりも「分つき米」の方が栄養価的に高いのは事実です。ただし、実施にあたっては、いろいろと検討していかなければならない点がいくつかあります。1点目は県給食会からの購入となるため、県全体の調整が必要なこと（一部だけでの対応は困難であること）。2点目は委託炊飯の場合は、分つき米と精白米との炊飯方法が異なるため、業者との調整が必要なこと。また、精白米以外のものを導入していく場合、搗精方法が異なるなど別の作業が必要となり、単価が高くなることが予想されます。

その他、食味的にも精白米より劣るため、子どもたちの嗜好を考慮すると、栄養面については、副食で補う方法が良いと考えます。

- 2) 牛乳ですが、高温殺菌より低温殺菌の方が吸収もよいと言われています。給食では高温殺菌

牛乳を使用していますが、低温殺菌牛乳になる可能性はないのでしょうか。

回答：

学校給食用牛乳は超高温短時殺菌法（130℃2秒間）による方法で製造されたものです。この方法は大量処理に適しており、かつ、殺菌効果は滅菌に近いといった利点があげられます。このような条件から、価格的に安価に供給できること、衛生面でも安全性が高いといったことから学校給食用牛乳についてはこの方法で処理したものを使用しています。

- 3) 他の自治区ではビン牛乳を使用しているという話を聞きました。豊田市は現在紙パックの牛乳ですが、ビン牛乳に切り替わる予定はありますか？

回答：

ビン牛乳に切り替わる予定は現時点ではありません。もし、切り替える場合においては、次のような問題があります。現在の牛乳業者にはビンの製造ラインがないこと。また、現在学校にある牛乳保冷庫では、全部の牛乳が収納できないため、新たに保冷庫を購入する必要があります。ただ、現在の各校の配膳室では、現状よりも大型の保冷庫を収納できるスペースを確保することは困難です。その他、ビンになると重量が必然的に重くなるため、給食従事者の作業負担が大きくなるなどの問題があります。

また、現在（豊田地区及び藤岡・小原地区）の牛乳については、子どもたちが牛乳パックを開け、リサイクルに出し、ティッシュやトイレットペーパーにするといった習慣が根付いている点もあり、切り替える予定は現時点ではありません。

- 4) 去年学校給食法が改正され、給食に必ず牛乳を出さなくてもよいことになったと聞きました。豊田市では現在も毎日出ています。和食の献立の日などは、牛乳がない日があってもよいのではないのでしょうか。（カルシウムの摂取目的ならば、デザートにカルシウム入りのウエハースなどに見てもいいのではないかと思います。）

回答：

「給食に牛乳を必ず出さなくてもよい」といった去年の法改正は確認することができません。学校給食は学校給食法に基づき、各市町で内容を決め、実施しています。その内容は主食、牛乳、おかずを組み合わせた3つの形態があり、いずれの形態も牛乳は提供されています。豊田市は、現在、主食、牛乳及びおかずを供する「完全給食」の型で実施し、献立は実施基準に基づいて、作成しています。この中で、エネルギーが1日の1/3の基準に対し、カルシウムは1/2に設定されており、牛乳は効率的にカルシウムを摂取できる食品として毎日つけています。

学校給食は、成長期にある児童生徒の発育に必要な栄養素をじゅうぶん摂取できる食事内容とすることに主眼をおいており、その中で牛乳は重要な役割を果たしています。決められた給食費の中で、効率よくカルシウム摂取ができる献立を提供するために、牛乳は一定価格で安定供給が図られる食品として欠かせません。

以上の点から現時点においては、牛乳についてはいろいろとご意見はありますが、成長期の児童生徒には必要なものであると考えています。

ただし、今後、食物アレルギーを持つ子どもたちについて、対応方法を検討していく予定です。

また、献立内容により合わないというご指摘についても、今後検討していきたいと思えます。

- 5) 給食審議会で配布された資料を（今年開催された分がかまいません）、1部いただくことはできますでしょうか？

回答：

7月に開催しますので、後日その資料を送付させていただきます。

- 6) 給食の未払いが全国で起きているようです。払える人が払わないなど、あつてはならないことで、憤りさえ感じます。豊田市でもあるのでしょうか。

どのように対応・対処されておられますか？

回答：

全国平均よりも割合としては低いですが、未納はあります。

対応方法として、現年度分は、各学校から電話連絡や家庭訪問などを行い、徴収に努めています。また、過年度分は、在籍者については、引き続き学校で徴収に努めながら、未納者全員に対し、市から年2回、督促を行っています。

今回は、学校給食に対しご意見をいただきありがとうございました。今後もご意見をいただいたことを参考にしながら、給食の充実を図っていききたいと思います。